SONY

2-149-854-**02** (1)

取扱説明書

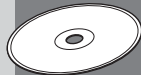
サイバーショット応用編／困ったときは

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-P100/P150

Cyber-shot

楽しみかたは、CD-ROMのムービーをご覧ください。

使いかたムービー
「Cyber-shot Life」
*** Windowsのみ対応**

基本的な内容は、別冊取扱説明書をご覧ください。

「サイバーショット基本編」

目次

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

静止画をプリントする（PictBridge対応プリンター）

動画を撮る

パソコンで楽しむ

困ったときは

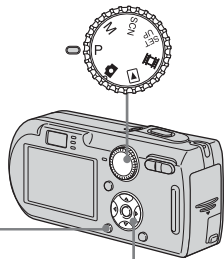
その他

用語の解説／索引

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

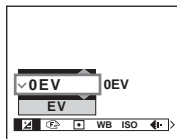
本書のイラストについて
本書のイラストや画面上の表示は特に説明が必要なところを除きDSC-P100を使用しております。

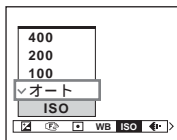
メニューの設定を変える

ここでは、メニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。

• モードダイヤルについて詳しくは、**別冊基本編** ➡ 9ページをご覧ください。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「M」、「SCN」、「🎞」、「▶」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

• モードダイヤルの位置によって表示される項目が異なります。

3 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

• 「▶」のときは項目選択後に中央の●を押してください。

4 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

選ばれた設定が拡大されて、そのまま決定されます。

項目の上に▲マーク、下に▼マークが付いているときは

画面に表示されていない項目があります。コントロールボタンの▲/▼を押すと表示されます。

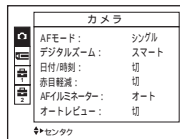
メニュー表示をやめるには

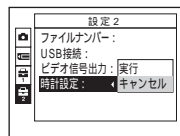
MENUボタンをもう1度押してください。

• グレー表示されている項目は選択できません。
• メニュー項目について詳しくは、72ページをご覧ください。

SET UP画面で設定を変える

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

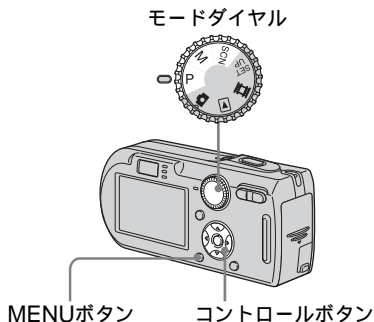
選ばれた設定の枠が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

モードダイヤルを「SET UP」以外にしてください。

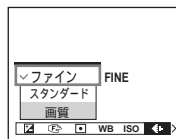
- SET UP項目について詳しくは、76ページをご覧ください。
- DSC-P150では、📷が📷1と📷2で表示されます（76ページ）。

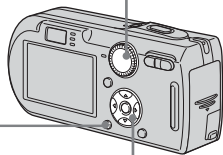
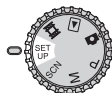
静止画の画質を決める

静止画の画質を選ぶことができます。画質（圧縮率）は［ファイン］（高画質）と［スタンダード］（標準）の2種類から選ぶことができます。

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

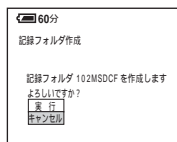
3 ◀/▶で［画質アイコン］（画質）、▲/▼で希望の画質を選ぶ

フォルダを作成／選択する

本機は“ メモリースティック ”の中に複数のフォルダを作成することができます。また、入れたいフォルダを選択して記録できます。
新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されます。フォルダは最高で「999MSDCF」まで作成することができます。

- 1つのフォルダに記録できるのは最大4000枚です。フォルダ容量を越えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。

新しいフォルダを作る

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ ］（メモリースティックツール）、▶/▲/▼で［記録フォルダ作成］、▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダ作成画面が表示されます。

3 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

既存最大番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

フォルダ作成を中止するには

手順2または3で［キャンセル］を選んでください。

- 1度作成したフォルダを本機では削除することはできません。
- 撮影する画像は、違うフォルダを選択するか、さらに新しくフォルダを作成するまで、そのフォルダに記録されます。

記録フォルダを選択する

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ ］（メモリースティックツール）、▶/▼で［記録フォルダ変更］、▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダ選択画面が表示されます。

3 ◀/▶で希望のフォルダを選び、▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダの変更を中止するには

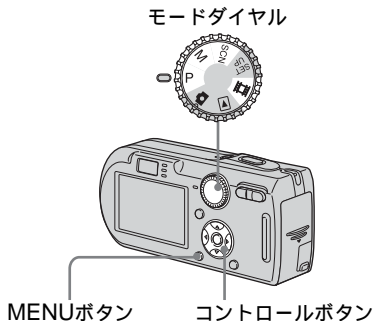
手順2または3で［キャンセル］を選んでください。

- 「100MSDCF」フォルダは記録フォルダとして選ぶことはできません（**別冊基本編** ➡ 57ページ）。
- 画像は選択した記録フォルダに記録されます。本機では記録した画像を別のフォルダに移動することはできません。

オートフォーカスの方法を選ぶ

AF測距枠とAFモードを設定できます。

AF測距枠
被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を選択します。

AFモード
ピント合わせを開始／終了するタイミングを設定します。

ピント合わせの測距枠を選ぶ
– AF測距

マルチポイントAF (⬚)
中央を中心に上下左右の5か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合に有効です。AFロック後、ピント合わせを行った位置を緑の枠で確認することができます。お買い上げ時はマルチポイントAFに設定されています。

中央重点AF (⬚)
中央付近の被写体をねらってピント合わせをするときに便利です。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能です。

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「⬚」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［⬚］（フォーカス）、▲/▼で［マルチAF］または［中央重点AF］を選ぶ
自動ピント合わせをします。
シャッターボタンを半押ししてピントが合うとAF測距枠の色が白から緑色に変わります。

マルチポイントAF

AF測距枠

AF測距枠表示

中央重点AF

AF測距枠

AF測距枠表示

ピント合わせの動作を選ぶ
– AFモード

- 動画撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手ぶれに強いAFが可能です。AF測距枠は[ ]になります。中央重点AFの場合は、選択された枠部分のみで測距するため、ねらった部分のピント合わせに便利です。
- デジタルズームやAFイルミネーターを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、[ ]または[ ]が点滅し、AF測距枠は表示されません。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できる測距枠が制限されます（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

シングルAF (S AF)

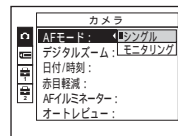
動きのない被写体を撮影するときに便利です。シャッターボタンを半押しする前はピント合わせを行いません。
シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。
お買い上げ時はシングルAFに設定されています。

モニタリングAF (M AF)

ピント合わせの時間を短くすることができます。シャッターボタンを半押しする前からピント合わせを自動的に行うので、ピントが合っている状態で構図を決めることができます。
シャッターボタンを半押しし、ロックが完了すると、フォーカスが固定されます。

- シングルAFに比べてバッテリーの消耗が早くなることがあります。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲で［📷1］（カメラ1）（DSC-P150）または［📷］（カメラ）（DSC-P100）、▶/▲で［AFモード］、▶/▲/▼で希望のモードを選び、中央の●を押す

- 液晶画面をオフにしてファインダーで撮影すると、シングルAF動作となります。
- DSC-P150では、📷が📷1と📷2で表示されます（76ページ）。

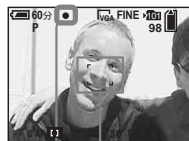
撮影のテクニック

被写体をフレームの端にする構図などで撮影する場合や、中央重点AFを使用した場合、端の被写体にピントが合わず、中央にピントが合う場合があります。このようなときは、AFロックを使用し、ピントをねらった被写体に合わせて撮影します。

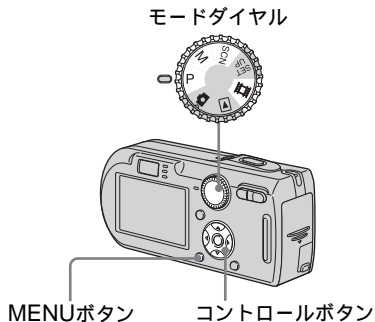
AF測距枠

AE/AFロック表示

被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターボタンを半押しする。

AE/AFロック表示が点灯に変わったら、半押しのまま構図を戻して、シャッターボタンをさらに押し込む。

- AFロックを使うと、画面端に被写体があるときにも、ピントが合った画像を撮ることができます。
- AFロックの操作はシャッターボタンを押し込む前であれば、何回でもやり直せます。

被写体までの距離を設定する – フォーカスプリセット

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、網や窓ガラス越しの被写体の撮影など、オートフォーカスが効きにくいときにフォーカスプリセットを使うと便利です。

1 **モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする**

2 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［フォーカス］（フォーカス）、▲/▼で被写体までの距離を選ぶ**

被写体までの距離は次の中から選べます。

0.5m、1.0m、3.0m、7.0m、∞（無限遠）

オートフォーカスに戻すには

手順**3**で［マルチAF］または［中央重点AF］を選んでください。

- フォーカス距離の設定は多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- レンズを上や下に向けると誤差は大きくなります。
- シーンセレクションのモードによっては、選択できる距離が制限されます（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

シャッタースピードと絞りを手動で設定して撮る

– マニュアル露出

シャッタースピードと絞り値を、手動で調整できます。
設定した値と本機が判断した適正露出の差が液晶画面上にEV値（13ページ）で表示されます。0EVが本機が最適と判断した値です。

1 **モードダイヤルを「M」にする**

2 **中央の●を押す**

画面左下の「設定」が「戻る」に変わり、マニュアル露出設定モードになります。

3 **▲/▼でシャッタースピードを選ぶ**

1/1000秒から30秒の範囲で選べます。
1/6秒またはそれよりも遅い設定のシャッタースピードを選択すると、シャッタースピードの前に「NR」と表示され、自動的にNRスローシャッター機能（**別冊基本編** ➡ 34ページ）が働きます。

4 **◀/▶で絞り値を選ぶ**

ズームによって異なる2つの絞り値を選べます。
ズームがW側いっぱいのとき：
F2.8／F5.6
ズームがT側いっぱいのとき：
F5.2／F10

5 **撮影する**

クイックレビュー、近接（マクロ）撮影、セルフタイマー撮影、またはフラッシュモード選択をするには

手順**4**のあとで中央の●を押し、マニュアル露出設定モードを解除してください。「戻る」から「設定」に変わります。

マニュアル露出を解除するには

モードダイヤルを「M」以外にしてください。

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。
- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、液晶画面のEV値が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは⚡（強制発光）または🚫（発光禁止）になります。

露出について

きれいな写真を撮るには、ピントなどの設定以外にも露出を合わせることが大切です。

露出とはデジタルスチルカメラのCCDが受け取る光の量のことです。これは、絞りとシャッタースピードの組み合わせによって変化します。光の量が多すぎると画像が明るく（白く）なり、少なすぎると暗くなります。適正な光の量を「適正露出」と言います。

適正露出の状態から、絞り値を小さくする場合はシャッタースピードを速くし、絞り値を大きくする場合はシャッタースピードを遅くすると適正露出を保つことができます。

絞りで調節する

絞りとは、光の入ってくる量を調整するレンズ開口部のことです。絞りを設定するときの数値を「絞り値（F値）」と呼びます。

開く（F値を小さくする）

- 露出オーバー寄りになる（明るくなる）。
- ピントの合う範囲が狭くなる。

閉じる（F値を大きくする）

- 露出アンダー寄りになる（暗くなる）。
- ピントの合う範囲が広くなる。

シャッタースピードで調節する

シャッタースピードとは、光の入ってくる時間を調整することです。

速くする

- 露出アンダー寄りになる（暗くなる）。
- 動きのあるものが止まって写る。

遅くする

- 露出オーバー寄りになる（明るくなる）。
- 動きのあるものが流れるように写る。

シャッタースピードを遅くするときは手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

露出オーバー

- 絞りを開く
- シャッタースピードを遅くする

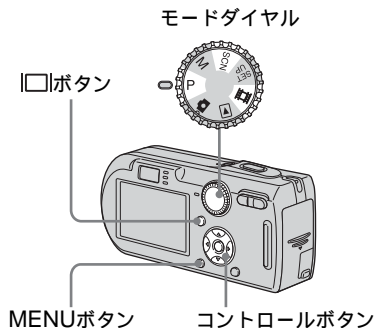
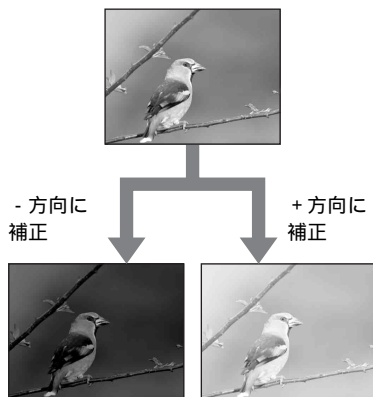
適正露出

露出アンダー

- 絞りを閉じる
- シャッタースピードを速くする

露出を補正する

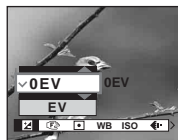
– EV補正

本機が決定した露出を手動で変えることができます。被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な露出が得られないときに使用します。
補正する数値は+2.0EVから−2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「SCN」、「 」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［ ］（EV）を選ぶ

露出補正値が表示されます。

4 ▲/▼で希望の露出補正値を選ぶ

被写体の背景の明るさを液晶画面で確認しながら調節してください。

EV補正をやめるには

手順4で［0EV］を選んでください。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

ヒストグラムを表示する

ヒストグラムとは、画像の明るさをグラフ化したものです。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。グラフの表示が右側に寄っているときは明るめの画像、左側に寄っているときは暗めの画像となります。画面が見づらいとき、撮影／再生時に露出を確認するときに使います。

1 モードダイヤルを「P」または「SCN」にする

2 |□|ボタンを押してヒストグラムを表示する

3 ヒストグラムを参考に、露出を補正する

- モードダイヤルを「📷」または「M」の位置にしてもヒストグラムは表示されます。ただし、EV補正はできません。
- 静止画のシングル画面での再生時（**別冊基本編** ➡ 35ページ）、クイックレビュー時（**別冊基本編** ➡ 23ページ）にも、|□|ボタンでヒストグラムを表示することができます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。

  －メニューを表示しているとき

  －再生ズーム時

  －動画時
- 下記の場合、⊗が表示されヒストグラムは表示されません。

  －デジタルズーム領域での撮影時

  －画像サイズが［3:2］のとき

  －マルチ連写再生時

  －静止画の回転時
- 撮影前のヒストグラムはそのときに画面に表示されている画像のヒストグラムを表しています。シャッターボタンを押す前と押したあとでは、ヒストグラムに差が生じます。その場合は、シングル画面での再生、またはクイックレビューで確認してください。
  特に下記の場合は大きく差が出ることがあります。

  －フラッシュ発光時

  －シャッタースピードが遅いとき、または速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

撮影のテクニック

撮影時、本機は自動で露出を設定しています。

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るいと判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

＋方向に補正

また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗いと判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は－方向に補正すると効果的です。

－方向に補正

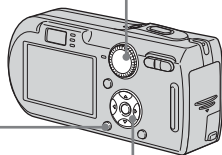
露出オーバー／露出アンダーになり過ぎないように（白とびしたり真っ黒に潰れないように）、ヒストグラムを見ながら補正してください。

どの明るさが良いかは好みによるので、露出を変えていろいろな画像をお試しください。

測光の方法を選ぶ

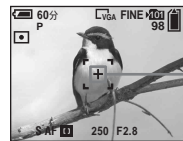
露出を決めるために被写体のどの部分で明るさを測るのかを、測光モードで選ぶことができます。

マルチパターン測光（表示なし）
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

スポット測光（[•]）
被写体の一部分だけを測光します。逆光にある被写体でも暗くならないように撮影することができます。また、被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［[•]］（測光モード）、▲/▼で希望の測光モードを選ぶ

4 手順3で［スポット］を選んだときは、撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮る

• スポット測光の場合、測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、［F］（フォーカス）の［中央重点AF］を使うことをおすすめします（7ページ）。

色合いを調節する

– ホワイトバランス

ホワイトバランスを撮影条件に応じたモードに設定することができます。被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。光源の撮影条件を固定したいときや画面全体が不自然な色合いのときは、ホワイトバランスの設定をおすすめします。

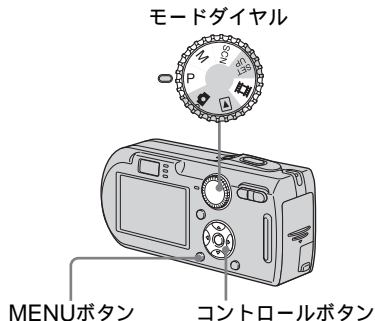
オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節します。お買い上げ時はオートに設定されています。

（太陽光）
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没前後などを撮る場合

（曇天）
くもり空のときに撮影する場合

（蛍光灯）
蛍光灯の下で撮影する場合

（電球）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下

WB（フラッシュ）
ホワイトバランスをフラッシュ光のみに合わせたい場合

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

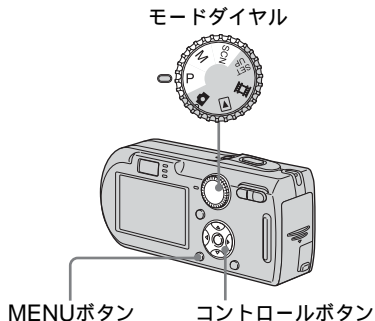
3 ◀/▶で［WB］（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

自動調節に戻すには

手順3で［オート］を選んでください。

- ちらつきのある蛍光灯下では、［］（蛍光灯）を選んでもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはホワイトバランスのマニュアルの設定が解除され、オートモードで撮影されます。（［WB］（フラッシュ）のときを除く。）
- シーンセレクションのモードによっては、選択できるホワイトバランスが制限されます（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

フラッシュの発光量を選ぶ – フラッシュレベル

フラッシュの発光量を調節することができます。

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

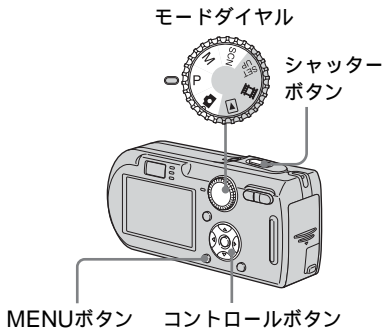
3 ◀/▶で［⚡±］（フラッシュレベル）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

＋：フラッシュの発光量を通常より多くする。

標準：通常の設定

－：フラッシュの発光量を通常より少なくする。

連写する

連続撮影するときに使います。最大連写枚数は、選択している画像サイズと画質によって変わります。

• バッテリーの残量が少ない、または“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると、シャッターボタンを押し続けても撮影は停止します。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲/▼で［連写］を選ぶ

4 撮影する

シャッターボタンを押し続けると、最大枚数まで連写できます。途中でシャッターボタンを離すと撮影はそこで止まります。

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

最大連写枚数（DSC-P150）

（単位：枚）

画質 / 画像サイズ	ファイン	スタンダード
7M	5	8
3:2	5	8
5M	6	11
3M	9	17
1M	22	41
VGA（Eメール）	85	100

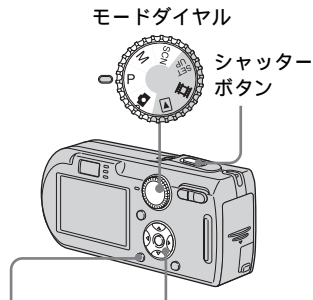
最大連写枚数（DSC-P100）

（単位：枚）

画質 / 画像サイズ	ファイン	スタンダード
5M	9	15
3:2	9	15
3M	13	24
1M	32	59
VGA（Eメール）	100	100

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは⚡（発光禁止）になります。
- セルフタイマー撮影ではシャッターボタンを1回押すと最大5枚の連続撮影になります。
- モードダイヤルが「M」のとき、1/6秒またはそれよりも遅いシャッタースピードは選べません。
- シーンセレクションのモードによっては、連写できない場合があります（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

マルチ連写で画像を撮る

– マルチ連写

1度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適しています。

1 モードダイヤルを「📷」、「P」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［Mode］（撮影モード）、▲で［マルチ連写］を選ぶ

4 ◀/▶で［▣］（インターバル）、▲/▼でコマ間の希望のインターバルを選ぶ

コマ間のインターバルは［1/7.5］、［1/15］、［1/30］から選ぶことができます。

- モードダイヤルが「📷」のとき、インターバルは［1/30］になります。

5 撮影する

1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録します（画像サイズ1M）。

- マルチ連写では下記の操作ができません。
  －スマートズーム
  －フラッシュ撮影
  －日付・時刻の挿入
- モードダイヤルが「M」のとき、シャッタースピードは、1/30秒よりも遅くすることはできません。
- マルチ連写で撮った画像を本機で再生するときは、24ページをご覧ください。
- マルチ連写の撮影枚数は71ページをご覧ください。
- シーンセレクションのモードによっては、マルチ連写できない場合があります（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

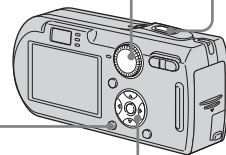
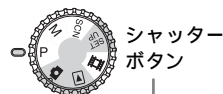
画像に特殊効果を加えて撮る – ピクチャーエフェクト

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

モノトーン

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

1 モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「 」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

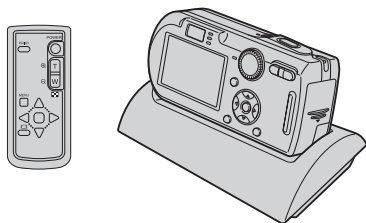
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

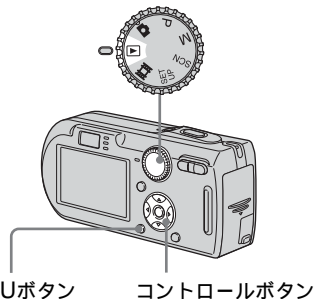
4 撮影する

ピクチャーエフェクトを解除するには

手順3で［切］を選んでください。

サイバーショットステーションを使う

サイバーショットステーション（別売り）を使うと、本機をセットするだけで充電が自動的に開始し、手軽に充電できます。
画像をテレビで再生するときは、サイバーショットステーションに付属のリモコンを使用して、離れた場所から画像を楽しくご覧いただけます。また PictBridge対応プリンターと接続し、リモコン操作で簡単にプリントすることができます。
詳しくは、サイバーショットステーションに付属の取扱説明書をご覧ください。

フォルダを選択して再生する – フォルダ

再生したい画像の入っているフォルダを選択します。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀で［🗀］（フォルダ）を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で再生したいフォルダを表示させる

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

再生フォルダの選択を中止するには

手順5で［キャンセル］を選んでください。

"メモリースティック"に複数のフォルダがあるときは

フォルダの内の最初／最後の画像に下記のマークが表示されます。

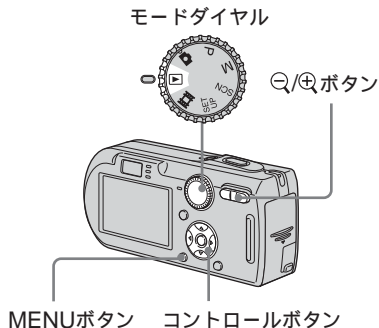
↵: 前のフォルダに移動できます。
↳: 次のフォルダに移動できます。
↵↳: 前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

シングル画面のとき

インデックス画面のとき

- 再生フォルダ内に画像がないときは、「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。

静止画の一部を拡大する

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます（DSC-P100のみ）。

画像を拡大する – 再生ズーム

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で拡大したい画像を表示する

3 ⊕（再生ズーム）ボタンを押して、画像を拡大する

4 ▲/▼/◀/▶を繰り返し押して、拡大したい部分を選ぶ

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ⊖/⊕（再生ズーム）ボタンで画像の大きさを調節する

拡大表示をやめるには

中央の●を押してください。

- 動画／マルチ連写画像は再生ズームできません。
- 拡大していない画像が表示されているときに⊖（再生ズーム）ボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。
- クイックレビュー（**別冊基本編** ➡ 23ページ）で表示した画像も手順3から5の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する
– トリミング（DSC-P100のみ）

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

メニューが表示されます。

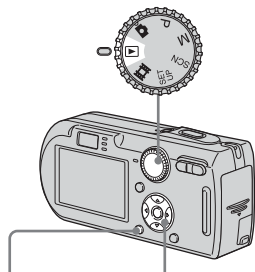
2 ▶で［トリミング］を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録フォルダに記録されます。元の画像はそのまま残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- クイックレビューで表示した画像はトリミングできません。

連続して再生する
– スライドショー

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［ ］（スライドショー）を選び、中央の●を押す

▲/▼/◀/▶で下記の設定を選んでください。

間隔設定

3秒／5秒／10秒／30秒／1分

再生画像

フォルダ内： 選択しているフォルダ内の画像がすべて再生される。

全て：“メモリースティック”内の画像がすべて再生される。

繰り返し

入： 繰り返し再生される。

切： すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

4 ▼/▶で［スタート］を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選んでください。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で［終了］を選び、●を押してください。

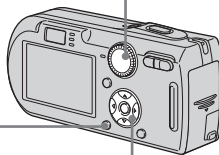
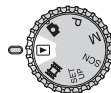
スライドショー再生中に画像を送る／戻すには

▶（送り）または◀（戻し）を押してください。

- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

– 回転

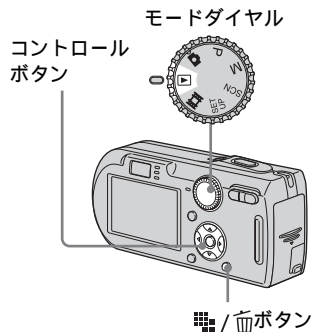
カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1. **モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する**
2. **MENUボタンを押す**
   メニューが表示されます。
3. **◀/▶で［ ］（回転）を選び、中央の●を押す**
4. **▲で［↶ ↷］を選び、◀/▶で画像を回転させる**
5. **▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す**

回転を中止するには

手順4または5で［キャンセル］を選んでください。

- プロテクトされている画像／動画／マルチ連写画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

マルチ連写の画像を再生する

マルチ連写で撮影した画像を順番に再生したり、1コマずつ再生したりすることができます。画像のチェックなどに便利です。

- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。マルチ連写機能のないカメラで再生した場合も同様です。
- マルチ連写画像は分割できません。

連続して再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

一時停止するには

中央の●ボタンを押してください。解除するときは、もう1度中央の●を押してください。表示されていたコマから連続再生が始まります。

1コマずつ再生する

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でマルチ連写の画像を選ぶ

マルチ連写画像が順番に再生されます。

3 コマ再生したい場所で中央の●を押す

コマ再生表示が表示されます。

4 ◀/▶で画像を送る

▶: 次のコマが表示されます。
押し続けるとコマが順送りされます。

◀: 前のコマが表示されます。
押し続けるとコマが逆送りされます。

連続再生に戻るには

手順**4**で中央の●を押してください。
表示されていたコマから連続再生が始まります。

撮影した画像を削除するには

マルチ連写で撮影した画像は希望のコマのみを削除することができません。
削除を実行すると、16コマすべてが削除されます。

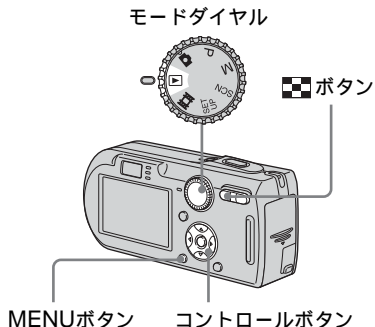
1 削除したいマルチ連写の画像を表示する。

2 ⊞/🗑（削除）ボタンを押す。

3 ［削除］を選び、中央の●を押す。
すべてのコマが削除されます。

画像を保護する

– プロテクト

大切な画像を誤って消さないように保護します。

- フォーマットするとプロテクトした画像も削除され元に戻せないのでご注意ください。
- プロテクトには時間がかかる場合があります。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［O-π］（プロテクト）を選び、中央の●を押す

表示されている画像にプロテクトがかかり、O-π（プロテクト）マークが付きます。

5 他の画像にもプロテクトをかけたいときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示し、中央の●を押す

プロテクト指定を解除するには

手順4または5でもう1度中央の●を押してください。O-πマークが消えます。

インデックス画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［O-π］（プロテクト）を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 プロテクトをかけたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色のO-πマークが付きます。

6 他の画像にもプロテクトをかけたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

🔑マークが白色に変わり、選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順**4**で［キャンセル］を、または手順**8**で［終了］を選び、中央の●を押してください。

プロテクト指定を解除するには

手順**5**でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押してください。🔑マークがグレーに変わります。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返してください。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像をプロテクトするには

手順**4**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に［入］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプロテクト指定を解除するには

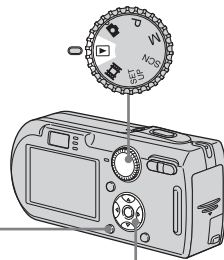
手順**4**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に［切］を選び、中央の●を押してください。

画像のサイズを変える

– リサイズ

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。

7M（DSC-P150のみ）、5M、3M、1M、VGAのサイズに変えられます。

リサイズしたあとも元の画像はそのまま残ります。

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶でサイズを変更したい画像を表示する**

3 **MENUボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［ ］（リサイズ）を選び、中央の●を押す

5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す

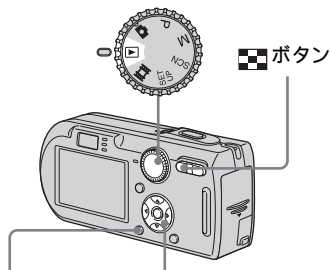
リサイズした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選んでください。

- 動画／マルチ連写画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントしたい画像を選ぶ – プリント予約マーク

プリントしたい画像をあらかじめ本機で予約することができます。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店やプリンター、PictBridge対応のプリンターで画像をプリントするときなどに便利な機能です。

- 動画にはプリント予約マークは付けられません。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリント予約マークが付きます。
- プリント枚数の設定はできません。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプリント予約したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［DPOF］（DPOF）を選び、中央の●を押す

表示されている画像に（プリント予約）マークが付きます。

5 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、◀/▶でプリント予約したい画像を表示し、中央の●を押す

プリント予約マークを消すには

手順4または5でもう1度中央の●を押してください。マークが消えます。

インデックス画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、(インデックス)ボタンを押してインデックス画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で[DPOF](DPOF)を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で[選択]を選び、中央の●を押す

- [フォルダ内全て]で、マークを付けることはできません。

5 プリント予約したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色のマークが付きます。

6 他の画像にもプリント予約マークを付けたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

8 ▶で[実行]を選び、中央の●を押す

マークが白色に変わり、設定が完了します。

プリント予約マークを消すには

手順5でマークを消したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプリント予約マークを消すには

手順4で[フォルダ内全て]を選び、中央の●を押してください。次に[切]を選び、中央の●を押してください。

プリント予約マークを中止するには

手順4で[キャンセル]を、または手順8で[終了]を選んでください。

PictBridge対応のプリンターと接続する

パソコンを持っていない場合でもPictBridge対応のプリンターを使えば、本機で撮影した画像を簡単にプリントすることができます。「SET UP」でUSB接続の設定をして、マルチ端子専用ケーブル（USB）で本機とプリンターをつなぐだけです。
PictBridge対応のプリンターでは、インデックスプリント*もできます。

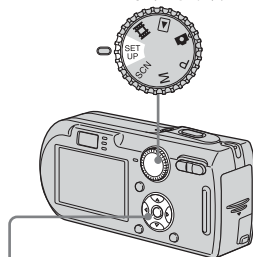
PictBridge

* インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。

- プリントの途中で電源が切れないようにするため、ACアダプターのご使用をおすすめします。

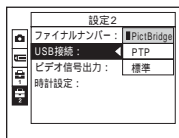
本機の準備をする

本機とプリンターを接続するためにUSB接続の方法を設定します。

モードダイヤル

コントロールボタン

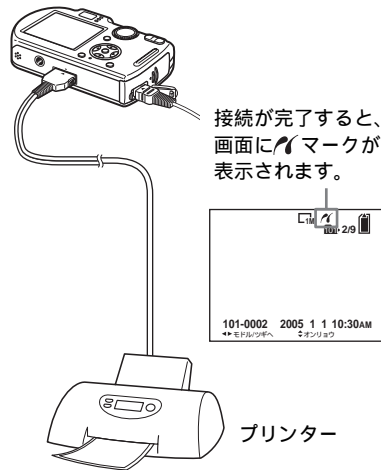
1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▼で［ ］（設定2）を選び、▲/▼/▶で［USB接続］を選ぶ

3 ▶/▲で［PictBridge］を選び、中央の●を押す

USB接続が設定されました。

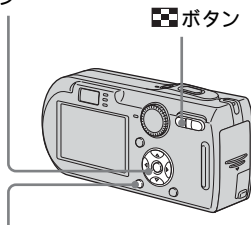
- DSC-P150では、 が と で表示されます（76ページ）。

本機とプリンターを接続する

付属のマルチ端子専用ケーブル（USB）で本機のマルチ接続端子とプリンターのUSB端子を接続し、本機とプリンターの電源を入れてください。
モードダイヤルの位置に関係なく、再生モードになり、選択されている再生フォルダの画像が液晶画面に表示されます。

「SET UP」の［USB接続］を［PictBridge］に設定していないときは

本機の電源を入れてもPictBridgeの機能はご使用になれません。本機からマルチ端子専用ケーブル（USB）を抜き、［PictBridge］に設定し直してください（32ページ）。

画像をプリントする

画像を選んでプリントします。32ページの手順を行い、本機を設定してからプリンターとつないでください。

- 動画はプリントできません。
- プリンターと接続中、プリンターからエラー発生の通知がくると、が約5秒間点滅します。その場合は、接続しているプリンターを確認してください。

シングル画面のとき

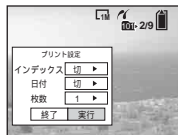
1 ◀/▶でプリントしたい画像を表示する

- DSC-P150をお使いの場合、手順1、2、3は不要です。手順4へ進んでください。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（プリント）を選び、中央の●を押す

4 ▲/▼で［この画像］を選び、中央の●を押す

プリント設定画面が表示されます。

- プリンターが対応していない設定項目は表示されません。
- DSC-P150では、［選択］を押すと、続けて他の画像も選ぶことができます。▲/▼で［プリント］を選ぶと、プリント設定画面が表示され、複数の画像を1度に印刷することができます。

5 ▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする枚数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。

6 ▼/▶で［実行］を選び、中央の●を押す

画像が印刷されます。

（USBマルチケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順6で［終了］を選んでください。

他の画像もプリントするには

手順6のあとでプリントしたい画像を選び、▲で［プリント］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、（プリント予約）マークが付いているすべての画像が、指定枚数ずつプリントされます。

画像に日付を挿入するには

手順5で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 15ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

用紙サイズを設定するには（DSC-P150のみ）

手順5で［サイズ］を選び、◀/▶で希望の用紙サイズを選んでください。

1 （インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

- DSC-P150では、プリンター接続後にプリント画面が表示されます。▼で［キャンセル］を選んでから（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にしてください。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ▶で［］（プリント）を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に✔マークが付きます。

6 他の画像もプリントしたいときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

プリント設定画面が表示されます。

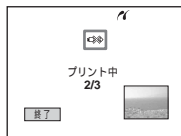
- プリンターが対応していない設定項目は表示されません。

8 ▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする画像の数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。選択したすべての画像が、指定枚数ずつプリントされます。

9 ▼/▶で［実行］を選び、中央の●を押す

画像が印刷されます。

マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順9で［終了］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、マークが付いているすべての画像が、指定枚数ずつプリントされます。

フォルダ内のすべての画像をプリントするには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。

画像に日付を挿入するには

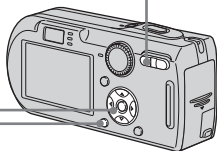
手順8で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 15ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

用紙サイズを設定するには（DSC-P150のみ）

手順5で［サイズ］を選び、◀/▶で希望の用紙サイズを選んでください。

画像をインデックスプリントする

何枚かの画像を並べてプリントすることができます。この機能をインデックスプリント*と言います。同じ画像を枚数指定してインデックス形式に並べて印刷することも、複数の異なる画像を組み合わせて1セットとし、このセットを部数指定して印刷することもできます。
32ページの手順を行い、本機を設定してからプリンターとつないでください。

* インデックスプリントはプリンターによっては対応していない場合があります。

- 動画はプリントできません。
- プリンターと接続中、プリンターからエラー発生の通知がくると、が約5秒間点滅します。その場合は、接続しているプリンターを確認してください。

シングル画面のとき

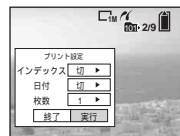
1 ◀/▶でプリントしたい画像を表示する

- DSC-P150をお使いの場合、手順1、2、3は不要です。
  手順4へ進んでください。

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（プリント）を選び、中央の●を押す

4 ▲/▼で［この画像］を選び、中央の●を押す

プリント設定画面が表示されます。

- プリンターが対応していない設定項目は表示されません。
- DSC-P150では、［選択］を押すと、続けて他の画像も選ぶことができます。▲/▼で［プリント］を選ぶと、プリント設定画面が表示され、複数の画像を1度に印刷することができます。

5 ▲で［インデックス］、◀/▶で［入］を選ぶ

6 ▲/▼で［枚数］、◀/▶で画像を並べる枚数を選ぶ

20枚まで選ぶことができます。
指定枚数分、画像を並べることができます。

- 画像枚数によっては1枚の用紙に指定枚数分の画像が収まらないことがあります。

7 ▼/▶で［実行］を選び、中央の●を押す

画像が印刷されます。
（USBマルチケーブル抜き禁止）マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順7で［終了］を選んでください。

他の画像もプリントするには

手順7のあとでプリントしたい画像を選び、▲で［プリント］を選んでください。その後、手順4から繰り返してください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、（プリント予約）マークが付いているすべての画像がプリントされます。

画像に日付を挿入するには

手順6で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 15ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

用紙サイズを設定するには（DSC-P150のみ）

手順5で［サイズ］を選び、◀/▶で希望の用紙サイズを選んでください。

インデックス画面のとき

1 **(インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする**

- DSC-P150では、プリンター接続後にプリント画面が表示されます。▼で［キャンセル］を選んでから（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にしてください。

2 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **▶で［］（プリント）を選び、中央の●を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**

5 **プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**

選んだ画像に✔マークが付きます。

6 **他の画像もプリントしたいときは、手順5を繰り返す**

7 MENU**ボタンを押す**

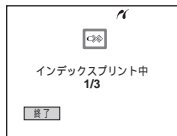
8 **▲で［インデックス］、◀/▶で［入］を選ぶ**

9 **▲/▼で［枚数］、◀/▶でプリントする部数を選ぶ**

20枚まで選ぶことができます。

10 **▼/▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

画像が印刷されます。

マークが画面に表示されているときは、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜かないでください。

プリントを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順10で［終了］を選んでください。

プリント予約マークの付いた画像をすべてプリントするには

手順4で［DPOF画像］を選んでください。表示されている画像と関係なく、マークが付いているすべての画像がプリントされます。

フォルダ内のすべての画像をインデックスプリントするには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。

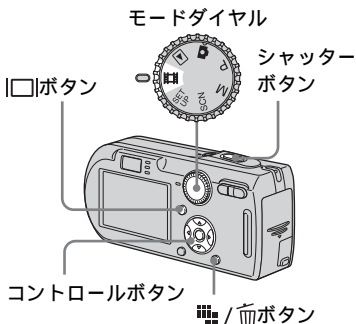
画像に日付を挿入するには

手順9で［日付］を選び、◀/▶で日付の種類を選んでください。［日時分］、［年月日］から選ぶことができます。［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（**別冊基本編** ➡ 15ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、お使いになるプリンターによっては対応していない場合があります。

用紙サイズを設定するには（DSC-P150のみ）

手順5で［サイズ］を選び、◀/▶で希望の用紙サイズを選んでください。

動画を撮る

音声付きの動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを「」にする

2 /(画像サイズ)ボタンを押す

画像サイズが表示されます。

3 ▲/▼で希望のサイズを選ぶ

[640 (ファイン)]、[640 (スタンダード)]、[160] から選べます。

- [640 (ファイン)] は"メモリースティック PRO"のみに記録できます。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、動画と音声の記録が始まります。

- "メモリースティック"の容量がいっぱいになると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう1度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

動画には記録されません。
ボタンを押すたびに、画面表示オフ→液晶画面オフ→画面表示オンの順で変わります。
ヒストグラムは表示されません。
表示される項目について詳しくは、88ページをご覧ください。

近接(マクロ)撮影する

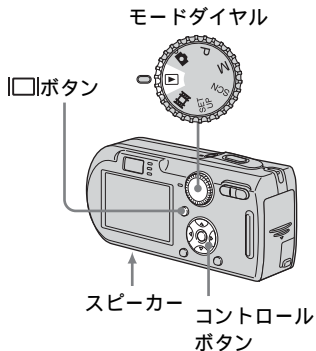
モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 25ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 26ページの手順に従ってください。

- 動画撮影中は下記の操作ができません。
  - ーズーム倍率の変更
  - ーフラッシュ撮影
  - ー日付・時刻の挿入
- マルチ接続端子に付属のマルチ端子専用ケーブル (A/V) がつながっているとき、[640 (ファイン)] に設定すると、液晶画面での撮影画像の表示ができません。液晶画面は青くなります。
- 画像サイズを切り替えると画面が一瞬黒くなります。
- 各サイズによる記録時間については、71ページをご覧ください。

液晶画面で動画を見る

本機の液晶画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

画像サイズ［640（ファイン）］または［640（スタンダード）］で撮影した動画は液晶画面いっぱいに表示されます。

- 画像サイズ［160］で撮影した動画はひとまわり小さく表示されます。

3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。

再生中は▶（再生）が液晶画面に表示されます。

再生を止めるには

中央の●をもう1度押してください。

音量を調節するには

▲/▼で調節してください。

早送り／巻き戻しをするには

再生中に▶（送り）または◀（戻し）を押してください。

通常の再生に戻るには、中央の●を押してください。

動画再生中の画面上の表示は

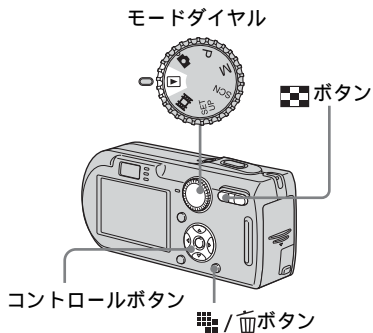
ボタンを押すたびに、画面表示オフ→液晶画面オフ→画面表示オンの順で変わります。

ヒストグラムは表示されません。

表示される項目について詳しくは、90ページをご覧ください。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** ➡ 37ページ）。
- 当社従来モデルで撮影した動画を再生すると、ひとまわり小さく表示される場合があります。

動画を削除する

不要な動画を削除します。

- プロテクトした動画は削除できません。
- 1度削除すると元に戻せないのでご注意ください。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で削除したい動画を表示する

3 /(削除）ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

4 ▲で［削除］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。

5 他の動画も削除するときは、◀/▶で削除したい動画を表示し、手順4を繰り返す

削除を中止するには

手順4または5で［終了］を選んでください。

インデックス画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、（インデックス）ボタンを押してインデックス画面にする

2 /(削除）ボタンを押す

3 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

4 削除したい動画を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ動画に(削除）マークが付きます。

この時点ではまだ削除されていません。

5 他の動画も削除するときは、手順4を繰り返す

6 /(削除）ボタンを押す

7 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」という表示が出て、動画が削除されます。

削除を中止するには

手順**3**または**7**で［終了］を選んでください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

手順**3**で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に▶で［実行］を選び、中央の●を押してください。削除を中止するときは、◀で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

動画を分割する

撮影した動画を分割したり、不要な部分を削除することができます。

“メモリースティック”の容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。

分割すると元の動画は削除されますので、ご注意ください。

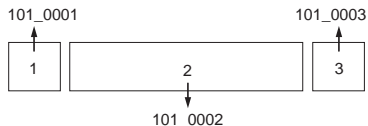
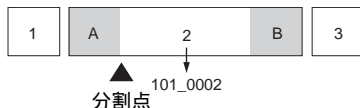
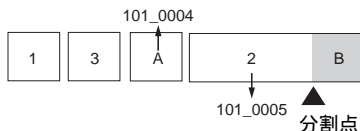
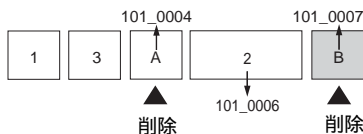
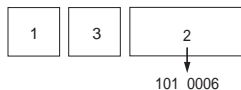
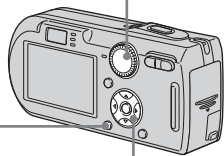
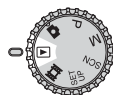
分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割した動画は、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号を割り振られ、選択している記録フォルダに記録されます。分割する前の元の動画は削除され、そのファイル番号は欠番になります。

〈例〉101_0002の動画を分割した場合

101_0001　101_0003

1　2　3

101_0002

1　シーンAを切り離す

2　シーンBを切り離す

3　シーンAとBが不要なら削除する

4　必要なシーンだけが残る

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で分割したい動画を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▶で［✂］（分割）を選び、中央の●を押す。▲で［実行］を選び、中央の●を押す

動画が再生されます。

5 分割する位置を決める

分割したい位置で、中央の●を押します。

分割する位置を微調整したいときは、［◀II/II▶］（コマ戻し／コマ送り）を選び、◀/▶で微調整してください。

分割する場所を選び直したいときは、［キャンセル］を選んでください。動画が再び再生されます。

6 分割する位置を決めたら、▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

7 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

動画が分割されます。

分割を中止するには

手順5または7で［終了］を選んでください。再生画面に戻ります。

- 下記の画像は分割できません。
  - 静止画
  - 分割できる充分な長さのない動画
  - プロテクトされている動画
- 1度分割した動画を元に戻すことはできません。
- 分割すると、元の動画は削除されます。
- 分割された動画は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。

「Picture Package」をインストールする

「Picture Package」はWindowsのみに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「Picture Package」（ピクチャーパッケージ）を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンで活用できます。「Picture Package」のインストールを行うと、USBドライバーのインストールも同時に行えます。

- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

Picture Package**に関するお問い合わせ**
サポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：06-6633-3900
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ppackage.com/

Windowsの基本動作環境については**別冊基本編** ➡ 44ページをご覧ください。その他に下記の環境が必要になります。

必要なソフトウェア：Macromedia Flash Player 6.0以降、Windows Media Player 7.0以降、DirectX 9.0b以降
オンラインでプリント注文する場合は（49ページ）、Internet Explorer 5.5以降（5.5 SP2、6 SP1を推奨）

サウンドカード：16 bitステレオサウンドカードおよびスピーカー

メモリ：64 MB以上（128 MB以上を推奨）

ハードディスク：インストール時に必要な容量：約200 MB

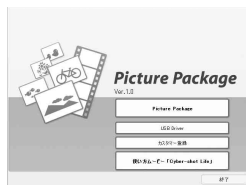
ディスプレイ：4 MBのVRAMを搭載したビデオカード（Direct Drawドライバに対応）

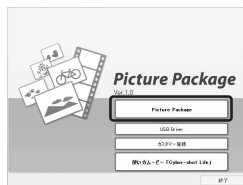
- スライドショーを自動作成する場合は（49ページ）、Pentium III 500 MHz以上のCPUが必要です。
- 本ソフトウェアはDirectXテクノロジーに対応しています。ご使用の際にはDirectXのインストールが必要です。
- CD-Rに書き込みを行う場合には、記録デバイスが動作する環境が別途必要です。

1 パソコンの電源を入れる

- USBドライバ単独でのインストール（**別冊基本編** ➡ 45ページ）をしていない場合は、インストール前に本機をパソコンに接続しないでください（Windows XP以外）。
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

2 CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

インストールメニュー画面が表示されます。

インストールメニュー画面が表示されないときは、デスクトップ上の（マイ コンピュータ）→（PICTUREPACKAGE）の順にダブルクリックしてください。

3 「Picture Package」をクリックする

設定言語の選択画面が表示されます。

4 「日本語」を選び、［次へ］をクリックする

5 ［次へ］をクリックする

「使用許諾契約」画面が表示されます。
「使用許諾契約」の内容をよく読み、同意される場合は［使用許諾契約の全条項に同意します］にチェックを入れ、［次へ］をクリックします。

6 ［次へ］をクリックする

7 「インストール準備の完了」画面の［インストール］をクリックする

インストールが始まります。
完了すると「ImageStation用のInstallShield Wizardへようこそ」画面が表示されます。

8 ［次へ］をクリックする。「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら［完了］をクリックする

インストール完了後、「DirectXセットアップの開始」画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールしてください。

9 ［はい、今すぐコンピュータを再起動します］がチェックされていることを確認して、［完了］をクリックする

パソコンが再起動します。

デスクトップ上に「Picture Package Menu」と「Picture Package Menu取り込み先フォルダ」のショートカットが表示されます。

10 パソコンからCD-ROMを取り出す

「Picture Package」で画像をコピーする

- 通常は「マイ ピクチャ」フォルダ内に「Picture Package」、「日付」フォルダが作成され、その中に画像ファイルがすべてコピーされます。

別冊基本編 ➡ 49ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のマルチ端子専用ケーブル（USB）でつないでください。

「Picture Package」が自動起動し、“メモリースティック”内の画像がコピーされます。コピーが行われるとPicture Package Viewerが起動し、コピーされた画像が表示されます。

- Windows XPでは、自動再生ウィザードが起動するように設定されています。
  自動再生ウィザードを起動しないようにするには「Picture Package Menu」を起動し、「設定」で自動再生を起動しないように設定することができます。
- 「Picture Package」で自動コピーが行えない場合は、「Picture Package Menu」を起動し、［自動取り込み］の中にある［設定］を確認してください。

「Picture Package」を使用する

デスクトップ上にある［Picture Package Menu］を起動させて画像を活用する方法を説明します。

- お使いのパソコンによっては初期画面が異なる場合があります。画面右下の「設定」でお好みの順に変更することができます。
- 詳しい使いかたについては、各画面右上にある?をクリックして、ヘルプをご覧ください。

パソコン内の画像を見る

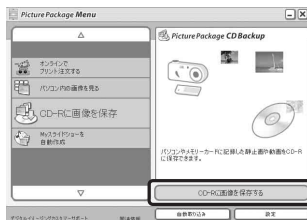
1 画面左側の［パソコン内の画像を見る］をクリックする

2 画面右下の［パソコン内の画像を見る］をクリックする

パソコン内の画像を見るための画面が表示されます。

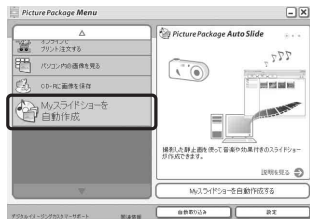
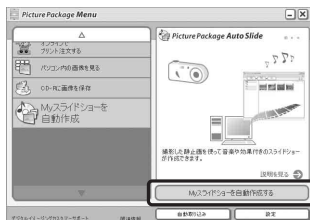
CD-Rに画像を保存する

1 画面左側の［CD-Rに画像を保存］をクリックする

2 画面右下の［CD-Rに画像を保存する］をクリックする

CD-Rに画像を保存するための画面が表示されます。

- CD-Rに画像を保存するには、CD-Rドライブが必要です。対応ドライブの情報はピクセラユーザーサポートセンターのホームページで確認できます。
  http://www.ppackage.com/

スライドショーを作成する

1 画面左側の［Myスライドショーを自動作成］をクリックする

2 画面右下の［Myスライドショーを自動作成する］をクリックする

Myスライドショーを作成するための画面が表示されます。

オンラインでプリント注文する

1 ［オンラインでプリント注文する］をクリックする

2 ［プリント注文へ進む］をクリックする

オンラインでプリント注文するための画面が表示されます。

- Windows 98には対応していません。
- インターネットに接続するための環境が必要です。
- イメージステーションのユーザー登録が必要です。登録の方法は、ヘルプをご覧ください。

「ImageMixer VCD2」を使用する

「ImageMixer VCD2」はMacintosh（Mac OS X（v10.1.5）以降）のみに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「ImageMixer VCD2」を使うと、パソコンに保存されている静止画や動画を素材として、ビデオCDを作成することができます。

Roxio社のToast（別売り）のビデオCD作成機能に対応したイメージファイルをディスクに書き込むことでビデオCDの作成ができます。

- パソコンを使用中の場合には、インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了してください。

ImageMixer VCD2に関するお問い合わせサポートはピクセラユーザーサポートセンターに委託しています。
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：06-6633-3900
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ImageMixer.com/

Macintoshの動作環境

OS：Mac OS X（v10.1.5以降）
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

CPU：iMac、eMac、iBook、PowerBook、Power Mac G3/G4シリーズ

メモリ：128 MB以上（256 MB以上を推奨）

ハードディスク：インストール時に必要な容量：約250 MB

ディスプレイ：1024×768ドット以上、32000色以上

- 工場出荷時にQuickTime 4以降がインストールされていることが必要です（QuickTime 5を推奨）。
- 推奨環境のすべてのパソコンの動作を保障するものではありません。

インストールする

1 パソコンの電源を入れる。
- ディスプレイの設定を1024×768ドット以上、32000色モード以上にしてください。

2 CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

3 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

4 「MAC」フォルダの中の「IMXINST.SIT」をハードディスクアイコンにコピーする。

5 コピー先のフォルダの中の［IMXINST.SIT］をダブルクリックする。

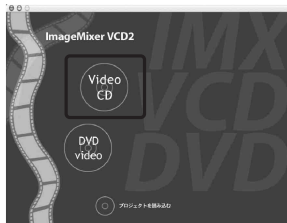
6 解凍された［ImageMixer VCD2_Install］をダブルクリックする。

7 ユーザーの承認画面が表示されたら、お好みの名前とパスワードを入力する。
ソフトウェアのインストールが始まります。

ビデオCDを作成する

1 「アプリケーション」の中から「ImageMixer」フォルダを開く

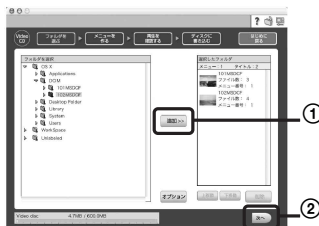
2 「ImageMixer VCD2」をクリックする

3 [Video CD] をクリックする

ビデオディスク作成モードが起動します。

- DVD Videoの作成はできません。

4 使用する画像の入ったフォルダを選択する

① 左画面からフォルダを選択し、[追加] をクリックする。
選択された画像フォルダが右画面に移動します。

② [次へ] をクリックする。

5 メニューの背景やボタンの設定、タイトルなどを入力し、[次へ] をクリックする

お好みに応じて入力してください。

6 ビデオCDの再生確認をする

① 左画面から再生したいファイルをクリックする。

② [▶] をクリックして再生する。

パソコンで楽しむ

7 ［次へ］をクリックしてディスク名と保存先を入力する

CD-Rに保存する準備が完了します。

- ImageMixer VCD2ではディスクイメージ（ビデオCD形式でCD-Rに書き込みを行うためのデータ）作成までを行います。実際にビデオCD形式でCD-Rに保存する場合は、Roxio社のToast（別売り）が必要になります。

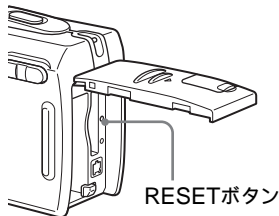
故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 53～69ページの項目をチェックし、本機を点検する

液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。70ページをご覧ください。

2 バッテリー／"メモリースティック"カバーの内側にあるRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）

RESET**ボタン**

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページで確認する
http://www.sony.co.jp/support-di/

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーが充電できない。	• 本機の電源が入っている。	→ 本機の電源を切る（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	• 正しく入れていない。	→ バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ正面側に押しながら入れる（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 → 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。

症状	原因	処置
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点滅する。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • バッテリーが故障している。	➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➔ 10ページ）。 ➔ テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯していない。	• ACアダプターがはずれている。 • ACアダプターが故障している。 • バッテリーが正しく取り付けられていない。 • 充電が完了している。	➔ きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➔ 13ページ）。 ➔ テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。 ➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➔ 10ページ）。 —
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	• 温度が極端に高いまたは低いところで使用している。 • 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。 • バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（83ページ）。	➔ 78ページをご覧ください。 ➔ バッテリーを使い切ってから充電すると、残量表示機能が正しくなる（**別冊基本編** ➔ 11ページ）。 ➔ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➔ 10ページ）。 ➔ 新しいバッテリーと交換する。
バッテリーの消耗が早い。	• 温度が極端に低いところで使用している。 • DCプラグが汚れていて充電が不充分。 • バッテリーそのものの寿命（83ページ）。	➔ 78ページをご覧ください。 ➔ DCプラグの端子を綿棒などで掃除してから充電する（**別冊基本編** ➔ 10ページ）。 ➔ 新しいバッテリーと交換する。
電源が入らない。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • ACアダプターがはずれている。 • ACアダプターが故障している。	➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➔ 10ページ）。 ➔ きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➔ 13ページ）。 ➔ テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

症状	原因	処置
電源が入らない。	• バッテリーが消耗している。 • バッテリーそのものの寿命（83ページ）。	→ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➞ 10ページ）。 → 新しいバッテリーと交換する。
電源が途中で切れる。	• 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる（**別冊基本編** ➞ 14ページ）。 • バッテリーが消耗している。	→ 電源を入れ直すか、ACアダプターを使う（**別冊基本編** ➞ 14、13ページ）。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➞ 10ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	• 前回使用時、液晶画面をオフにして電源を切った。	→ 液晶画面をオンにする（**別冊基本編** ➞ 29ページ）。
液晶画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「📷」または「P」、「M」、「SCN」、「🎞」になっていない。	→ モードダイヤルを「📷」または「P」、「M」、「SCN」、「🎞」にする（**別冊基本編** ➞ 9ページ）。
動画撮影時、液晶画面が青くなって被写体が写らない。	• マルチ接続端子にマルチ端子専用ケーブル（A/V）がつながった状態で、画像サイズが［640（ファイン）］に設定されている。	→ マルチ端子専用ケーブル（A/V）を抜く。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションの🌙（夜景モード）、⛰（風景モード）または🎆（打ち上げ花火モード）が選ばれている。 • フォーカスプリセットになっている。	→ 近接（マクロ）撮影モードにする。近接（マクロ）撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影する（**別冊基本編** ➞ 25ページ）。 → 🌙（夜景モード）、⛰（風景モード）または🎆（打ち上げ花火モード）以外にする（**別冊基本編** ➞ 33ページ）。 → オートフォーカスに戻す（10ページ）。
ズームができない。	• 動画撮影中はズーム倍率を変更できない。	—

症状	原因	処置
プレシジョンデジタルズームができない。	•「SET UP」の［デジタルズーム］が［スマート］または［切］になっている。 • 動画撮影時はできない。	➔［プレシジョン］にする（5、76ページ、**別冊基本編** ➡ 24ページ）。 —
スマートズームができない。	•「SET UP」の［デジタルズーム］が［プレシジョン］または［切］になっている。 • 画像サイズが［7M］（DSC-P150）、［5M］（DSC-P100）または［3:2］になっている。 • マルチ連写で撮影している。 • 動画撮影時はできない。	➔［スマート］にする（5、76ページ、**別冊基本編** ➡ 24ページ）。 ➔ 画像サイズを［7M］（DSC-P150）、［5M］（DSC-P100）または［3:2］以外にする（**別冊基本編** ➡ 18、24ページ）。 ➔ マルチ連写時はスマートズームは使えない（19ページ、**別冊基本編** ➡ 24ページ）。 —
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 液晶画面が暗い。	➔ 測光モードを選ぶ（16ページ）。 ➔ 露出を補正する（12、13、73ページ）。 ➔ LCDバックライトの明るさを調節する（78ページ）。
画像が明るい。	• 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 • 液晶画面が明るい。	➔ 露出を補正する（12、13、73ページ）。 ➔ LCDバックライトの明るさを調節する（78ページ）。
画像が白黒になる。	• ピクチャーエフェクトが［モノトーン］になっている。	➔［モノトーン］以外にする（20ページ）。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミアという現象。	➔ 故障ではない。
暗い場所で液晶画面を見ると画像にノイズが目立つ。	• 暗い場所でも確認できるように、液晶画面を一時的に明るくする機能が働いている。	➔ 撮影される画像には影響ありません。

症状	原因	処置
撮影できない。	• “ メモリースティック ”が入っていない。	→“ メモリースティック ”を入れる（**別冊基本編** ➡ 17ページ）。
	• “ メモリースティック ”の容量がいっぱいになっている。	→“ メモリースティック ”内の不要な画像を削除する（41ページ、**別冊基本編** ➡ 38ページ）。 →“ メモリースティック ”を交換する。
	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 誤消去防止スイッチを解除する（81ページ）。
	• フラッシュ充電中は撮影できない。	—
	• 静止画撮影時、モードダイヤルが「📷」または「P」、「M」、「SCN」になっていない。	→ モードダイヤルを「📷」または「P」、「M」、「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。
	• 動画撮影時、モードダイヤルが「🎞」になっていない。	→ モードダイヤルを「🎞」にする（39ページ）。
	• 動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン）］になっている。	→“ メモリースティック　PRO ”を入れる（39、81ページ）。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
撮影に時間がかかる。	• NRスローシャッター機能が働いている。	→ **別冊基本編** ➡ 34ページをご覧ください。
フラッシュ撮影ができない。	• モードダイヤルが「▶」または「SET UP」、「🎞」になっている。	→ モードダイヤルを「📷」または「P」、「M」、「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。
	• 設定が⚡（発光禁止）になっている。	→ オート（表示なし）または⚡（強制発光）、⚡SL（スローシンクロ）にする（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
	• 静止画撮影時、シーンセレクションの🌙（夜景モード）、🎆（打ち上げ花火モード）または🕯（キャンドルモード）が選ばれている。	→ 🌙（夜景モード）、🎆（打ち上げ花火モード）または🕯（キャンドルモード）以外にする（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。
	• 静止画撮影時、シーンセレクションの⛰（風景モード）、⛄（スノーモード）、🏖（ビーチモード）または🏃（高速シャッターモード）が選ばれている。	→ ⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
	• ［Mode］（撮影モード）が［連写］または［マルチ連写］になっている。	→ ［連写］または［マルチ連写］以外にする。

症状	原因	処置
近接（マクロ）撮影ができない。	• 静止画撮影時、シーンセレクションの🌙（夜景モード）、🏔（風景モード）、🎆（打ち上げ花火モード）または🕯（キャンドルモード）が選ばれている。	➔ 🌙（夜景モード）、🏔（風景モード）、🎆（打ち上げ花火モード）または🕯（キャンドルモード）以外にする（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。
連写できない。	• "メモリースティック"の容量がいっぱいになっている。 • バッテリーの残量が少ないため、1枚しか撮影できない。	➔"メモリースティック"内の不要な画像を削除する（41ページ、**別冊基本編** ➡ 38ページ）。 ➔ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。
被写体の目が赤く写る。	—	➔ 赤目軽減モードにする（76ページ、**別冊基本編** ➡ 28ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	➔ 日付・時刻を合わせる（78ページ、**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
シャッターを半押しするとF値、シャッタースピードが点滅する。	• 露出が合っていない。	➔ 露出を補正する（13ページ）。
ファインダー内に横線が見える。	• ファインダーの構造によるものです。	➔ 故障ではない。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	• モードダイヤルが「▶」になっていない。 • パソコンでフォルダ／ファイルの名前を変更した。 • パソコンで加工した画像は本機で再生できない。 • USBモードになっている。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。 → **別冊基本編** ➡ 59ページをご覧ください。 — → USB接続を終了する（**別冊基本編** ➡ 55、60ページ）。
表示直後に再生画像が粗い。	• 画像処理のため、表示直後に画像が粗くなる。	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	• 「SET UP」の［ビデオ信号出力］が［PAL］になっている。 • 接続が正しくない。	→ ［NTSC］にする（78ページ）。 → 接続を確認する（**別冊基本編** ➡ 37ページ）。
パソコンで再生できない。	—	→ 61ページをご覧ください。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされている。 • “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 画像のプロテクトを解除する（28ページ）。 → 誤消去防止スイッチを解除する（81ページ）。
誤って消してしまった。	• 1度削除した画像は元に戻せない。	→ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（28ページ）。 →“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤消去を防げます（81ページ）。
リサイズができない。	• 動画／マルチ連写画像はリサイズできない。	—
プリント予約マークが付かない。	• 動画にはプリント予約マークを付けられない。	—
動画を分割できない。	• 分割できる充分な長さのない動画は分割できない。 • プロテクトされている動画は分割できない。 • 静止画は分割できない。	— → 画像のプロテクトを解除する（28ページ）。 —

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	→ 「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** ➡ 44、60ページ）。
USB**ドライバをインストールできない。**	—	→ Windows 2000を使用している場合は、Administrator（管理者権限）でログオンする（**別冊基本編** ➡ 45ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源が入っていない。	→ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。
	• バッテリー残量が少ない。	→ ACアダプターを使用する（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
	• 付属のマルチ端子専用ケーブル（USB）を使っていない。	→ 付属のマルチ端子専用ケーブル（USB）を使う（**別冊基本編** ➡ 49、60ページ）。
	• マルチ端子専用ケーブル（USB）がしっかり差し込まれていない。	→ 1度パソコンと本機からマルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いて再度しっかりと差し込み、「USBモード」と表示されているか確認する（**別冊基本編** ➡ 49ページ）。
	• 「SET UP」の［USB接続］が［標準］になっていない。	→ ［標準］にする（5、78ページ）。
	• パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	→ キーボード／マウス以外は取りはずす（**別冊基本編** ➡ 44ページ）。
	• 本機がパソコン本体に直接接続されていない。	→ USBハブ経由などで接続せずに本機とパソコンを直接接続する（**別冊基本編** ➡ 44ページ）。
	• USBドライバがインストールされていない。	→ USBドライバをインストールする（**別冊基本編** ➡ 45ページ）。
	• CD-ROM（付属）から「USBドライバ」をインストールする前に、マルチ端子専用ケーブル（USB）で本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。	→ 正しく認識されなかったデバイスを削除してから、USBドライバをインストールする（**別冊基本編** ➡ 52、45ページ）。

症状	原因	処置
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンの接続が正しくない。 • お使いのOSによって手順が違う。 • パソコンでフォーマットした“ メモリースティック ”で撮影した。	→ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（**別冊基本編** ➡ 49ページ）。 → お使いのOSに対応した手順でコピーする（47ページ、**別冊基本編** ➡ 50、53、60ページ）。 → 本機でフォーマットした“ メモリースティック ”で撮影してください。
USB**接続をしたときに**「Picture Package」**が自動起動しない。**	— —	→「Picture Package Menu」を起動し、［設定］を確認してください。 → パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をする（**別冊基本編** ➡ 49ページ）。
画像を再生できない。	— —	→「Picture Package」ソフトウェアをお使いの場合は、各画面右上にあるヘルプをご覧ください。 → パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	•“ メモリースティック ”から直接再生している。	→ パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（47ページ、**別冊基本編** ➡ 50、53、60ページ）。
画像を印刷できない。	—	→ プリンターの設定を確認する。
パソコンからコピーした画像ファイルが本機で見られない。	• 間違ったフォルダにコピーしている。	→ 101MSDCFなど本機で認識するフォルダにコピーする（**別冊基本編** ➡ 59ページ）。

“ メモリースティック ”

症状	原因	処置
本機に入らない。	• “ メモリースティック ”を入れる向きが違っている。	→ 正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ➡ 17ページ）。
記録できない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 • “ メモリースティック ”の容量がいっぱいになっている。 • 動画撮影時、画像サイズが［640（ファイン）］になっている。	→ 誤消去防止スイッチを解除する（81ページ）。 →“ メモリースティック ”内の不要な画像を削除する（41ページ、**別冊基本編** ➡ 38ページ）。 →“ メモリースティック　PRO ”を入れる（39、81ページ）。 → 画像サイズを［640（ファイン）］以外にする。
フォーマットできない。	• “ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 誤消去防止スイッチを解除する（81ページ）。
誤ってフォーマットしてしまった。	• フォーマットすると、“ メモリースティック ”内のデータはすべて消去され、元に戻せない。	→“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます（81ページ）。

PictBridge対応プリンター

症状	原因	処置
プリンターと接続できない。	• プリンターがPictBridgeに対応していない。 • プリンターが接続できない状態になっている。 • 「SET UP」の［USB接続］が［PictBridge］になっていない。 • 接続状態によっては、接続が確立できない場合がある。	➔ PictBridgeに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 ➔ プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認する。 ➔ ［PictBridge］にする（78ページ）。 ➔ マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
プリントできない。	• プリンターと接続されていない。 • プリンターの電源が入っていない。 • プリント中に「終了」を選ぶと、プリンターによっては再度印刷できない場合がある。 • 動画はプリントできない。 • 本機以外で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合がある。	➔ 本機とプリンターがマルチ端子専用ケーブル（USB）で正しく接続されているかどうかを確認する。 ➔ プリンターの電源を入れる。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。 ➔ マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いて、接続し直してください。それでも復帰しないときは、マルチ端子専用ケーブル（USB）をもう1度抜き、プリンターの電源を入れ直してから接続し直してください。 — —
プリントが中断される。	• （USBマルチケーブル抜き禁止）マークが消える前に、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いた。	—

症状	原因	処置
日付挿入／インデックスプリントができない。	• プリンターが日付挿入／インデックスプリントに対応していない。 • プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合がある。	→ 日付挿入／インデックスプリントに対応しているかどうか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。 → プリンターのメーカーにお問い合わせください。
日付部分に「---- -- --」などが印刷される。	• 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていない。	→ 印刷可能な撮影日時情報が入っていない画像ファイルでは、日付の印刷を行うことができない。［日付］を［切］に設定して印刷してください。
プリンターの用紙サイズ通りに印刷できない（DSC-P150**のみ**）。	• プリンターと同じ用紙サイズを本機で設定していない。 • 本機とプリンターを接続後、プリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた。	→ 用紙サイズを設定する（34ページ）。 → マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いて、接続し直してください。
プリントしようとした用紙サイズが表示されない（DSC-P150**のみ**）。	• 接続するプリンターによって選択できる用紙サイズが異なります。対応していない用紙サイズは表示されません。	—

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	• “ インフォリチウム ”バッテリーを使っていない。 • バッテリーが残り少ない（表示が出る）。 • ACアダプターがしっかり差し込まれていない。	→ バッテリーは必ず“ インフォリチウム ”バッテリーを使う（82ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 → DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
電源が入っているのに操作できない。	• 内部システムの誤動作。	→ 電源を取りはずし、約1分後再び電源をつなぎ、本機の電源を入れる。これでも操作できないときは、バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除される。）
液晶画面上の表示が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（87～90ページ）。
レンズがくもる。	• 結露している。	→ 電源を切って約1時間そのままにしてから使用する（80ページ）。
長時間使用すると、本機が熱くなる。	—	→ 故障ではない。
電源を切ってもレンズが収納されない。	• バッテリーが消耗している。	→ 充電されたバッテリーを取り付けるか、ACアダプターを使用する（**別冊基本編** ➡ 10、13ページ）。

警告表示について

液晶画面には次のような表示が出ることがあります。

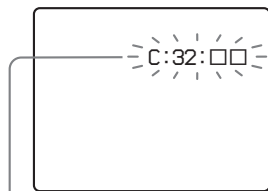
表示	意味／処置
メモリースティックがありません	•“ メモリースティック ”を入れてください（**別冊基本編** → 17ページ）。
システムエラー	• 電源を入れ直してください（**別冊基本編** → 14ページ）。
メモリースティックエラー	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（81ページ）。 •“ メモリースティック ”が壊れている。 •“ メモリースティック ”の端子部が汚れている。 •“ メモリースティック ”を正しく入れてください（**別冊基本編** → 17ページ）。
非対応のメモリースティックです	• 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（81ページ）。
フォーマットエラー	•“ メモリースティック ”が正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください（**別冊基本編** → 41ページ）。
メモリースティックがロックされています	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（81ページ）。
メモリースティックの残量がありません	•“ メモリースティック ”の空き容量が足りないので、記録ができない。不要な画像やデータを削除してください（41ページ、**別冊基本編** → 38ページ）。
読み出し専用のメモリースティックです	• 本機ではこの“ メモリースティック ”への画像記録や消去はできません。
このフォルダにはファイルがありません	• フォルダ内に画像が記録されていない。
フォルダエラー	• 上3桁の番号が同じフォルダが“ メモリースティック ”内にある（例：123MSDCFと123ABCDE）。別のフォルダを選択するかフォルダを作成してください。

表示	意味／処置
これ以上フォルダ作成できません	• 上3桁の番号が「999」のフォルダが“ メモリースティック ”内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。
記録できません	• 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択してください（6ページ）。
ファイルエラー	• 画像再生時の異常。
ファイルがプロテクトされています	• 画像にプロテクトがかけられている。プロテクトを解除してください（28ページ）。
“ インフォリチウム ”バッテリーを使ってください	• “ インフォリチウム ”対応以外のバッテリーを使っている。
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
分割できません	• 分割できる充分な長さがない。 • 動画ではない。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
	• 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使ってください。または、三脚などでカメラをしっかりと固定してください。
電源を入れ直してください	• レンズの誤動作。
640 **（ファイン）に対応していません**	• ［640（ファイン）］の動画に対応しているのは“ メモリースティック　PRO ”のみです。“ メモリースティック　PRO ”を入れてください。または画像サイズを［640（ファイン）］以外に設定してください。

表示	意味／処置
接続先を確認してください	• 本機の設定が［PictBridge］になっているのに、PictBridgeに対応していない機器と接続している。接続している機器を確認してください。 • 接続状況によっては、接続が確立できない場合がある。マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
機器と接続してください	• プリンターと接続する前にプリントしようとした。PictBridge対応のプリンターと接続してください。
プリントできる画像がありません	• プリント予約マークを付けないで［DPOF画像］を実行しようとした。 • 動画しか入っていないフォルダを選んで、［フォルダ内全て］を実行しようとした。動画はプリントできません。
プリンタービジー	• 接続しているプリンターが印刷中などで、印刷要求を受け付けることができない。接続しているプリンターを確認してください。
用紙エラー	• 接続しているプリンターが、用紙切れ、紙詰まりなどの用紙に関するエラーを起こしている。接続しているプリンターを確認してください。
インクエラー	• 接続しているプリンターが、インクに関するエラーを起こしている。接続しているプリンターを確認してください。
プリンターエラー	• プリンターからエラー発生の通知がきている。接続しているプリンターを確認してください。または、プリントしたい画像が壊れていないか確認してください。
	• 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性がある。マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜かないでください。
処理中（DSC-P150のみ）	• プリンターが印刷中止処理を行っている。処理が完了するまでは印刷できません。プリンターによっては処理に時間がかかることがあります。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能が付いています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	電源を入れ直す （**別冊基本編** ➡ 14ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	“ メモリースティック ”を数回抜き差しする。
	フォーマットしていない“ メモリースティック ”を入れた。	フォーマットする （**別冊基本編** ➡ 41ページ）。
	本機では使えない“ メモリースティック ”を入れた。またはデータが壊れている。	“ メモリースティック ”を交換する （**別冊基本編** ➡ 17ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタン（53ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があります。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

記録枚数／時間について

“ メモリースティック ”の容量、画像サイズ、画質によって記録できる枚数、時間が異なります。
表を参考に用途に応じて“ メモリースティック ”をお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については**別冊基本編** ➡ 20ページをご覧ください。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、「>9999」と表示されます。

マルチ連写 **（単位：枚）**

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)

動画

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
640(ファイン)	—	—	—	—	0:02:57	0:06:02	0:12:20
640(スタンダード)	0:00:42	0:01:27	0:02:56	0:05:54	0:10:42	0:21:47	0:44:27
160	0:11:12	0:22:42	0:45:39	1:31:33	2:51:21	5:47:05	11:44:22

記録時間の読みかた：例えば［1:34:45］は、1時間34分45秒です。

- 画像サイズは下記になります。
  640（ファイン）：640×480
  640（スタンダード）：640×480
  160：160×112

メニュー項目について

モードダイヤルの位置や設定によって操作できる項目は変わります。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」のとき

項目	設定	意味
Mode（撮影モード）	マルチ連写 連写 ■通常撮影	– 1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録する（19ページ）。 – 連続撮影する（18ページ）。 – 通常の撮影をする。

モードダイヤルが「P」、「M」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN（シーン）1)	／／／／／／ ／／■	シーンセレクションを設定する（**別冊基本編** → 31ページ）。
(EV) 2)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／−0.3EV／−0.7EV／−1.0EV／−1.3EV／−1.7EV／−2.0EV	露出を補正する（13ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。

項目	設定	意味
(測光モード)	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（16ページ）。測光枠を設定する。
WB（ホワイトバランス）	WB／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（17ページ）。
ISO	400／200／100／■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい値を、高画質を得るには小さい値を選ぶ。 • ISO感度の値が大きくなるほどノイズ感が増します。
(画質)	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する／標準の画質で記録する（5ページ）。
Mode（撮影モード）	マルチ連写 連写 ■通常撮影	– 1枚の静止画の中に連続した16コマの画像を記録する（19ページ）。 – 連続撮影する（18ページ）。 – 通常の撮影をする。
(インターバル)[3]	1/7.5／1/15／■1/30	マルチ連写のシャッター間隔を設定する（19ページ）。（[Mode]（撮影モード）が［マルチ連写］以外のときは設定できません。）
(フラッシュレベル)[4]	＋／■標準／–	フラッシュの発光量を調節する（18ページ）。
PFX（P.エフェクト）	モノトーン／セピア／■切	画像の特殊効果を設定する（20ページ）。
(彩度)[5]	＋／■標準／–	画像の彩度を調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。
(コントラスト)[5]	＋／■標準／–	画像のコントラストを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。
(シャープネス)[5]	＋／■標準／–	画像のシャープネスを調節する。設定が標準以外のときは、画面にが出る。

1) モードダイヤルが「P」、「M」に設定されているときは表示されません。

2) モードダイヤルが「M」に設定されているときは表示されません。

3) 「SCN」が（夜景モード）、（夜景+人物モード）、（打ち上げ花火モード）、（キャンドルモード）に設定されているときは表示されません。

4) 「SCN」が（夜景モード）、（打ち上げ花火モード）、（キャンドルモード）に設定されているときは表示されません。

5) モードダイヤルが「SCN」に設定されているときは表示されません。

モードダイヤルが「🎞」のとき

項目	設定	意味
(EV)	＋2.0EV／＋1.7EV／＋1.3EV／＋1.0EV／＋0.7EV／＋0.3EV／■0EV／－0.3EV／－0.7EV／－1.0EV／－1.3EV／－1.7EV／－2.0EV	露出を補正する（13ページ）。
（フォーカス）	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり（7ページ）、フォーカスプリセットで距離を設定する（10ページ）。
（測光モード）	スポット／■マルチ	撮りたい被写体に露出を合わせる（16ページ）。
WB（ホワイトバランス）	／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（17ページ）。
PFX（P.エフェクト）	モノトーン／セピア／■切	画像の特殊効果を設定する（20ページ）。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
(フォルダ)	実行／キャンセル	再生したい画像の入っているフォルダを選ぶ（22ページ）。
(プロテクト)	ー	画像に誤消去防止の指定／解除をする（28ページ）。
DPOF（DPOF）	ー	プリント予約マークを付けたい／消したい静止画像を選ぶ（30ページ）。
(プリント)	ー	PictBridge対応プリンターでプリントする（32ページ）。
(スライドショー)	間隔設定	– スライドショーの間隔を設定する（24ページ）。（シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分
	再生画像	– スライドショーを再生する範囲を設定する。 ■フォルダ内／全て
	繰り返し	– スライドショーを繰り返し再生する。 ■入／切
	スタート	– スライドショーを実行する。
	キャンセル	– スライドショーの設定および実行を中止する。
(リサイズ)	7M（DSC-P150のみ）／5M／3M／1M／VGA／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（29ページ）。（シングル画面のときのみ）
(回転)	／／実行／キャンセル	静止画像を左回り、または右回りに回転する（25ページ）。（シングル画面のときのみ）
(分割)	実行／キャンセル	動画を分割する（42ページ）。（シングル画面のときのみ）

その他

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

(カメラ1)(DSC-P150)、(カメラ)(DSC-P100)

項目	設定	意味
AFモード	■シングル/モニタリング	ピント合わせの動作モードを設定する(8ページ)。
デジタルズーム	■スマート/プレシジョン/切	デジタルズームのモードを選ぶ(**別冊基本編** → 24ページ)。
日付/時刻	日時分/年月日/■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうかを設定する(**別冊基本編** → 30ページ)。動画/マルチ連写では、日付・時刻は挿入されない。また、撮影時は日付や時刻は表示されず、再生時に表示される。
赤目軽減	入/■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する(**別冊基本編** → 28ページ)。
AFイルミネーター	■オート/切	暗いところで撮影するとき、AF補助光を発光させるかどうかを選ぶ。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です(**別冊基本編** → 28ページ)。
オートレビュー	■入/切(DSC-P150) 入/■切(DSC-P100)	静止画撮影時、撮影直後に記録した画像を自動的に液晶画面に表示するかどうかを設定する。[入]に設定すると記録画像が約2秒間表示される。その間は次の撮影はできない。 • DSC-P150では、シャッターボタンを半押しすると記録画像の表示が消え、すぐに次の撮影ができます。

(カメラ2)(DSC-P150のみ)

項目	設定	意味
アイコン拡大	■入/切	(フラッシュモード)/(セルフタイマー)/(マクロ)を押したとき、設定を一時的に拡大表示するかどうかを選ぶ。

(メモリースティックツール)

項目	設定	意味
フォーマット	実行/キャンセル	"メモリースティック"をフォーマット(初期化)する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、"メモリースティック"に記録されているすべてのデータが消去され、元に戻せないのでご注意ください(**別冊基本編** → 41ページ)。
記録フォルダ作成	実行/キャンセル	新しいフォルダを作成する(6ページ)。
記録フォルダ変更	実行/キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する(6ページ)。

(設定1)

項目	設定	意味
LCDバックライト	明／■標準／暗	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
言語	■日本語 English	– メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。

(設定2)

項目	設定	意味
ファイルナンバー	■連番 リセット	– 記録フォルダを変更したり、“ メモリースティック ”を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。 – フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。（記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。）
USB**接続**	PictBridge／PTP／ ■標準	本機とパソコンまたはPictBridge対応プリンターをマルチ端子専用ケーブル（USB）で接続するときのモードを設定する（32ページ、**別冊基本編** → 44、49ページ）。
ビデオ信号出力	■NTSC PAL	– ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州など）。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（5ページ、**別冊基本編** → 15ページ）。

使用上のご注意

置いてはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする
液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする
レンズに指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする
ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

表面をきれいにする
水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

– シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤のような化学薬品類
– 上記が手についたまま本機を扱うこと
– ゴムやビニール製品との長時間の接触

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0°C〜40°Cです。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機をACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

- 充電式ボタン電池はバッテリー ／ “ メモリースティック ”カバーの内部にあるふたの奥に内蔵されています。絶対に取りはずさないでください。

“ メモリースティック ” について

“ メモリースティック ”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“ メモリースティック ”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“ メモリースティック ”の動作を保証するものではありません。

“ メモリースティック ”の種類	記録・再生[4]
メモリースティック	○
メモリースティック　デュオ[1]	○
メモリースティック（マジックゲート／高速データ転送対応）	○[2) 3)]
メモリースティック　デュオ（マジックゲート／高速データ転送対応）[1]	○[2) 3)]
マジックゲート　メモリースティック	○[2]
マジックゲート メモリースティック　デュオ[1]	○[2]
メモリースティック　PRO	○[2) 3)]
メモリースティック　PRO　デュオ[1]	○[2) 3)]

[1] 本機でご使用の場合は、必ずメモリースティック　デュオ　アダプターに装着してからお使いください。

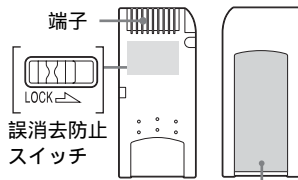
[2] マジックゲート搭載の“ メモリースティック ”です。“ マジックゲート ”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。

[3] パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

[4] 動画の［640（ファイン）］は“ メモリースティック　PRO ”または“ メモリースティック　PRO　デュオ ”でのみ記録／再生できます。

- パソコンでフォーマットした“ メモリースティック ”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“ メモリースティック ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み／書き込み速度が異なります。

“ メモリースティック ”（付属）使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。

誤消去防止スイッチの有無や位置、形状は、お使いの“ メモリースティック ”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“ メモリースティック ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。

• 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。

—高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所

—直射日光のあたる場所

—湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック　デュオ”(別売り)使用上のご注意

• “メモリースティック　デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“メモリースティック　デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。

• “メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。

• “メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向を確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。

• メモリースティック　デュオ　アダプターに“メモリースティック　デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

• “メモリースティック　デュオ”をフォーマットするときは、“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに装着してください。

• “メモリースティック　デュオ”に誤消去防止スイッチがついている場合、誤消去防止を解除してお使いください。

“メモリースティック　PRO”(別売り)使用上のご注意

本機で動作確認されている“メモリースティック　PRO”は1GBまでです。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

InfoLITHIUM™ R TYPE

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10°C～30°Cの環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（24ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。
- バッテリー端子の汚れやショート等を防止するため、携帯や保管には必ずバッテリーケースをお使いください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

主な仕様

■ 本体

[システム]

撮像素子 DSC-P150
9.11 mm（1/1.8型）カラーCCD
原色フィルター

DSC-P100
9.04 mm（1/1.8型）カラーCCD
原色フィルター

総画素数 DSC-P150
約7 410 000画素

DSC-P100
約5 255 000画素

カメラ有効画素数
DSC-P150
約7 201 000画素

DSC-P100
約5 090 000画素

レンズ カール ツァイス バリオ・テッサー
3倍ズームレンズ

f=7.9 ～23.7 mm（35 mmカメラ換算では38 ～114 mm）、F2.8～5.2

露出制御 自動、マニュアル露出
シーンセレクション（9モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、フラッシュ

記録方式（DCF準拠）
静止画：Exif Ver. 2.2　JPEG準拠、DPOF対応

動画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“ メモリースティック ”

フラッシュ 推奨撮影距離（ISO感度がオートのとき）
0.2～3.5 m（W）／
0.3～2.5 m（T）

[入出力端子]

マルチ接続端子

USB通信 Hi-Speed USB
（USB 2.0 準拠）

[液晶画面]

液晶パネル 4.6 cm（1.8型）TFT駆動

総ドット数 134 000（560×240）ドット

[電源・その他]

使用バッテリー
NP-FR1

電源電圧バッテリー端子入力
3.6 V

消費電力（撮影時、液晶画面オン）
DSC-P150
1.4 W

DSC-P100
1.3 W

動作温度 0°C～+40°C

保存温度 –20°C～+60°C

外形寸法 108×51.5×26.6 mm
（幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く）

本体質量 約183 g（バッテリーNP-FR1、“ メモリースティック ”、リストストラップなど含む）

マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン

スピーカー ダイナミックスピーカー

Exif Print 対応

PRINT Image Matching II
対応

PictBridge 対応

■ ACアダプター AC-LS5/LS5B

定格入力 AC 100～240 V、50/60 Hz、11 W、0.16 A～0.09 A

定格出力 DC 4.2 V、1.5 A

動作温度 0°C～＋40°C

保存温度 －20°C～＋60°C

外形寸法（最大突起部を除く）
約48×29×81 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量 約130g（本体のみ）

■ バッテリーNP-FR1

使用電池 リチウムイオン蓄電池

最大電圧 DC 4.2 V

公称電圧 DC 3.6 V

容量 4.4 Wh（1 220 mAh）

付属品

DSC-P150

- ACアダプターAC-LS5/LS5B（1）
- 電源コード（1）
- バッテリーパックNP-FR1（1）
- バッテリーケース（1）
- マルチ端子専用USB・A/Vケーブル（1）
- リストストラップ（1）
- “メモリースティック”（32MB）（1）
- CD-ROM（USBドライバSPVD-012）（1）
- サイバーショット基本編（1）
- サイバーショット応用編／困ったときは（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

DSC-P100

- ACアダプターAC-LS5/LS5B（1）
- 電源コード（1）
- バッテリーパックNP-FR1（1）
- バッテリーケース（1）
- マルチ端子専用USBケーブル（1）
- マルチ端子専用A/Vケーブル（1）
- リストストラップ（1）
- “メモリースティック”（32MB）（1）
- CD-ROM（USBドライバSPVD-012）（1）
- サイバーショット基本編（1）
- サイバーショット応用編／困ったときは（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや“ メモリースティック ”などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“ 故障かな？と思ったら ”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください（裏表紙）。

画面上の表示

カッコ内の数字はページ数です。

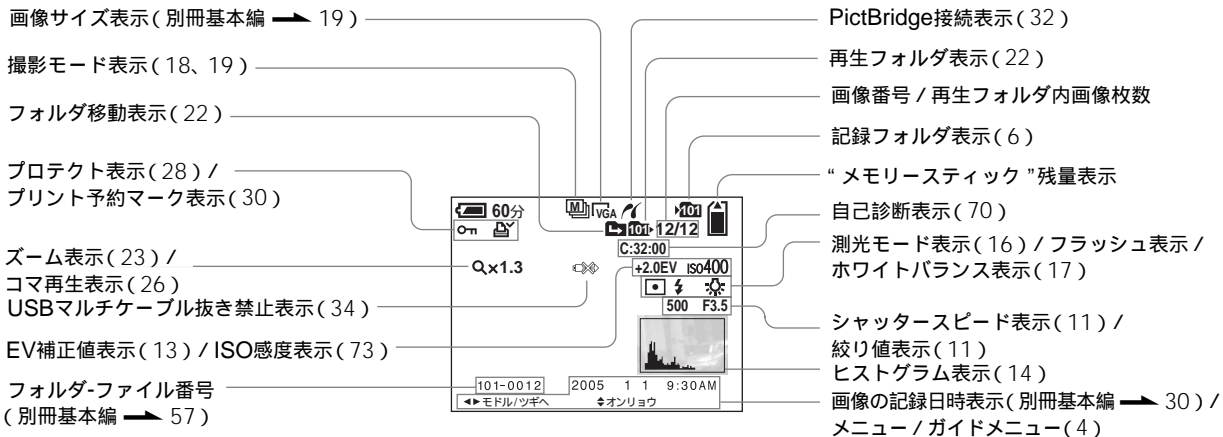
静止画撮影時

その他

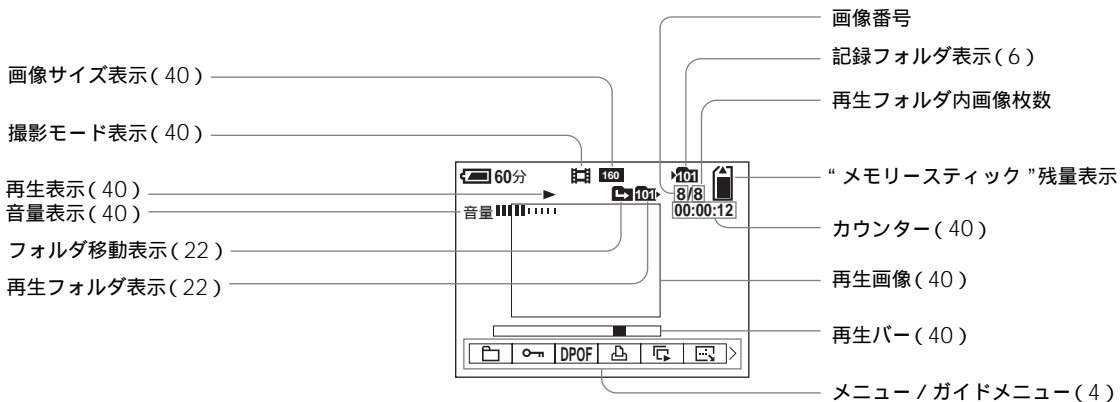
動画撮影時

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡**ページ番号」のようにご案内しています。

静止画再生時

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡** ページ番号」のようにご案内しています。

動画再生時

• メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

用語の解説

インストール（44、50、**別冊基本編 ➡** 45ページ）
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にします。

“ インフォリチウム ”バッテリー（82ページ）
“ インフォリチウム ”に対している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能（**別冊基本編 ➡** 14ページ）
電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源は自動的に切れます。

視差（パララックス）
ファインダーで見える範囲とレンズを通して液晶画面に写る範囲に差が生じることです。被写体との距離が近くなるほど視差が大きくなります。

シャッタースピード
撮影時にCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

スマートズーム（**別冊基本編 ➡** 24ページ）
極めて画質劣化の少ない、画質を優先したデジタルズームです。光学ズームと同じような感覚で使うことが可能です。ただし、最大ズーム倍率は設定している画像サイズによって異なります。

ドライバ（**別冊基本編 ➡** 45ページ）
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピューター側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（**別冊基本編 ➡** 22ページ）
シャッターボタンを押し込まず、半分押しした状態にしておくことです。シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

ピント（**別冊基本編 ➡** 22ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、撮影距離を設定することもできます。

フォーマット（**別冊基本編 ➡** 41ページ）
「初期化」とも言います。“ メモリースティック ”にデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、“ メモリースティック ”に保存されているデータはすべて消えます。

フォルダ（6、22ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所のことです。ファイルを分類するときに便利です。

プレシジョンデジタルズーム（**別冊基本編 ➡** 25ページ）
ズーム倍率を優先したデジタルズームです。画像をデジタル処理することにより、画像サイズの設定に関係なく常に最大で光学ズーム倍率の2倍のズームが可能になります。画像サイズ、ズームポジションによっては、スマートズームより画質が劣化することがありますが、一般的なデジタルズームに比べて劣化の少ない画質が得られます。

ホワイトバランス（17ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

“メモリースティック”（81ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

有効画素数（84ページ）
CCDが光から電気信号に変換できる画素数です。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になります。

露出（13ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編** ➡ 22ページ）
「Auto Exposure」の略です。
被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能のことです。

AF（7、**別冊基本編** ➡ 22ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（84ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種です。

DCF（**別冊基本編** ➡ 4ページ）
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格です。

DPOF（30ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。プリント予約したい写真を“メモリースティック”上に指定することができます。

EV（13ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif（84ページ）
（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

ISO（73ページ）
「イソ」と読みます。カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（**別冊基本編** ➡ 58ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（**別冊基本編** ➡ 58ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画撮影時、MPEG形式で画像を保存します。

OS（**別冊基本編** ➡ 44ページ）
「Operating System」の略で、コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PictBridge（32ページ）
「ピクトブリッジ」と読みます。
カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントすることができます。

PTP（78ページ、**別冊基本編** ➡ 44ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法です。

USB（**別冊基本編** ➡ 44ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格です。

VGA（**別冊基本編** ➡ 19ページ）
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

アルファベット

製品についてのサポートのご案内

本機についてのサポート情報

http://www.sony.co.jp/support-di/

Picture Package/ImageMixer VCD2**に関するお問い合わせ窓口**
ピクセラユーザーサポートセンター
【電話番号】**06-6633-3900**　http://www.ppackage.com/
＜電話受付時間＞
　月～日曜日　午前9時～午後5時　（ただし、年末、年始、祝日を除く）

電話でのお問い合わせ

テクニカルインフォメーションセンター　【電話番号】**0564-62-4979**
＜電話受付時間＞
　月～金曜日　午前9時～午後5時　（ただし、年末、年始、祝日を除く）
　お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。
テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

カスタマー登録をしていただくと、修理の際の状況・日程をWEB上でご確認できるなどのサポートを受けられます。
詳しくは同梱のチラシ「デジタルイメージングカスタマー登録のおすすめ」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEB**サイト**
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。
英語の取扱説明書のダウンロードサービスも実施しています。
English manual download service is available.

2149854020

Printed in Japan